

# 学校司書のおすすめ～読書って楽しい！！

## ②～本当にあったことが織り込まれたお話～

こんにちは、『読書のすすめ』のコーナーを見てくれてありがとうございます。

さて、みなさんに本の紹介をするとき、「これは本当にあったことだよ！」と言うと、「え～そうなんだ！」という驚きの声を耳にすることが多いです。物語の中には、本当に起こったことを織り交ぜたり、実在した人物を登場させたりしているものも多くあります。今回はそういうお話について、短くお伝えします。

まず、『若草物語』（発行：ポプラ社）。このお話の舞台は、南北戦争（1861年～1865年）が起きていた頃のアメリカのボストン郊外の小さな町です。南北戦争は実際にアメリカで起きた内戦で、リンカーン大統領が有名な演説をしたのもこの戦争の最中でした。物語の登場人物には、作者オルコット自身や彼女の姉妹が色濃く反映されています。その当時の女の子たちがどんなことに興味を持っていたのかもくわしく書かれています。それから『三銃士』（発行：岩波書店）というフランスのアレクサンドル・デュマの書いた小説があります。これは、主要な登場人物のほとんどが実在した人物で、主人公の銃士ダルタニャンも実在しました。フランスに興味のある人にはぜひお勧めしたい楽しい冒険活劇です。それから、『トムは真夜中の庭で』（発行：岩波書店）。このお話はトムという少年が20世紀の世界から6～70年前の19世紀後半の世界へ毎夜迷い込むお話ですが、当時のイギリスを寒波が襲い、川が凍り付いてスケートで渡れたことなどが書かれています。～ヨーロッパの人にとっては、温暖化を実感させられるお話なのかなあ～と思いつつ読んでみるのもよいかもかもしれません。（それ以外の部分でもとても面白いお話です！）そして、日本のお話から『ぼんぼん』（発行：岩波書店）をあげたいと思います。太平洋戦争の最中、大阪の街で母と兄とともに必死に生き抜いた少年の日常が細かく描かれています。実際に起きた大阪大空襲についても子どもの視点から克明に描かれています。

最後に、小学生のみなさんには少し難しいので篠原小の図書館にはありませんが、中高生になったときにぜひ読んでほしい本を紹介します。『ペスト』（著：カミュ）、『いいなづけ』（著：マンゾーニ）の2冊です。『ペスト』は、恐ろしい感染症のせいで封鎖された都市の中で人々がどのように考え行動するのかが描かれたフランス文学です。もう一つの小説『いいなづけ』はとても長いので読むのに覚悟がいりますが、17世紀イタリアを舞台にペストが広まっていく中で、人々が様々な情報に翻弄され右往左往する様子が描かれています。どちらも昨年の緊急事態宣言が出されたときに私が読んだ本ですが、昔の小説に出てくる人々も今生きている私たちも本質は変わらないなあと思えました。今、まさにコロナ禍にいるみなさんに是非お勧めしたい小説です。

今回紹介した本：『若草物語』（発行：ポプラ社）分類93/オ

『三銃士』（発行：岩波書店）分類95/デ（岩波少年文庫の]-ナ-）

『トムは真夜中の庭で』（発行：岩波書店）93/ピ（はまっこ読書]-ナ-）

『ぼんぼん』（発行：岩波書店）91/い（岩波少年文庫の]-ナ-）

（篠原小図書館にはない本）

『ペスト』（著：カミュ）

『いいなづけ』（著：マンゾーニ）